

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
溝口大助			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-130804-0	13人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

具体的には、(1)はじめに社会学や人類学において展開された質的調査の方法論を文献を通して集中的に習得し、(2)調査実習の中盤では現地に入って調査を実施し、(3)最後に文献研究と平行して、調査実習報告の執筆を行なう。厳しい「労働環境」におかれる滞日外国人の現実の矛盾を一人一人の「生(ライフ)」の観点から深く掘り下げて考察することが最終目標とした。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

滞日外国人研究 ライフの民族誌

2. 調査の内容/概要：

本社会調査実習の目的は、東京近郊の滞日外国人コミュニティを訪ね、彼らの生活の中に身を埋め、自己の身体の文化的差異を再確認する点にあった。質的調査のため、信頼関係構築だけでかなりの時間を費やしたが、そのため学生たちは調査の方法を身体的に把握しただろう。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

東京近郊の滞日外国人コミュニティ、とりわけ関東圏に広い範囲で生活を営むアフリカ人を対象とした。本年が、5年に一度のアフリカ開発会議だったからである。

4. 主な調査項目：

出身国、出身村、出身地の生業、内戦、紛争などの有無、長期滞日の理由、日本での家族構成、出身地の家族構成、出身地の生業、親族関係の内実、出身地の政治、出身地の宗教、日本での文化適応、ヴィザの取得の困難さ、仕送りの有無、その理由など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査)の方法：

調査方法は、主に質的調査方法である。とりわけ、集中的な聞き取りを行なうことで、滞日外国人の日常生活の現実に迫ることを目的とした。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2013年4月より2014年1月。調査地：ガーナ、ブルキナファソ、コートディヴォワール、横浜、六本木、赤羽、目黒、新宿、立川、渋谷、埼玉県、福島県などなど。調査員の数：13名

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

収集したデータは、滞日アフリカ人の現実を深く追求するものであった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

解釈の方法は、社会学のライフヒストリー法およびゴフマン社会学の手法、社会人類学、文化人類学的手法。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

厳しい「労働環境」におかれる滞日外国人の現実の矛盾を一人一人の「生(ライフ)」の観点から描き出せた。現地調査の基礎的な知識を習得するために国際社会学や文化人類学の基礎的な認識と実践を習得できた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.30 2014年3月発行。